

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年8月6日
【四半期会計期間】	第63期第3四半期（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）
【会社名】	浜松ホトニクス株式会社
【英訳名】	HAMAMATSU PHOTONICS K.K.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 晝馬 明
【本店の所在の場所】	静岡県浜松市東区市野町1126番地の1 (注) 上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記において 行っております。
【電話番号】	053(434)3311 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 嶋津 忠彦
【最寄りの連絡場所】	静岡県浜松市中区砂山町325番地の6 (日本生命浜松駅前ビル)
【電話番号】	053(452)2141 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 嶋津 忠彦
【縦覧に供する場所】	浜松ホトニクス株式会社東京支店 (東京都港区虎ノ門三丁目8番21号虎ノ門33森ビル) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第62期 第3四半期 連結累計期間	第63期 第3四半期 連結累計期間	第62期 第3四半期 連結会計期間	第63期 第3四半期 連結会計期間	第62期
会計期間	自平成20年 10月1日 至平成21年 6月30日	自平成21年 10月1日 至平成22年 6月30日	自平成21年 4月1日 至平成21年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成20年 10月1日 至平成21年 9月30日
売上高(百万円)	52,918	66,426	14,535	22,902	71,976
経常損益(百万円)	3,295	10,908	297	4,050	4,794
四半期(当期)純損益(百万円)	7	7,747	1,226	2,863	1,791
純資産額(百万円)			116,454	121,231	117,452
総資産額(百万円)			160,912	170,285	158,026
1株当たり純資産額(円)			1,428.65	1,498.60	1,441.44
1株当たり四半期(当期)純損益(円)	0.09	96.37	15.26	35.62	22.29
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益(円)	0.09				22.12
自己資本比率(%)			71.4	70.8	73.3
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	7,657	20,740			9,227
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	30,400	9,671			27,647
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	5,460	2,065			7,319
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)			15,802	26,340	18,007
従業員数(名)			3,842	4,002	3,793

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には消費税等は含まれておりません。

3 従業員数については、就業人員数を記載しております。

4 第62期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

5 第63期第3四半期連結累計期間及び第63期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成22年6月30日現在)

従業員数(名)	4,002
---------	-------

(注)従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数については従業員の100分の10未満のため記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

(平成22年6月30日現在)

従業員数(名)	2,831
---------	-------

(注)従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数については従業員の100分の10未満のため記載を省略しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
光電子部品事業	20,493	164.3
計測機器事業	2,682	158.2
その他事業		
合計	23,175	163.6

- (注) 1 金額は販売価格によっております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社グループは主に見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
光電子部品事業	20,742	161.0
計測機器事業	2,045	134.7
その他事業	115	87.3
合計	22,902	157.6

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2 総販売実績に対する販売割合が10%以上の相手先はありません。

2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
 また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、新たに決定又は締結した経営上の重要な契約はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）における経営環境は、雇用情勢に依然として厳しさが残るものの、各種経済対策により耐久消費財を中心として個人消費が持ち直しに転じつつあり、また、海外経済の改善により輸出は増加を続けるなど、景気は緩やかな回復基調の中で推移いたしました。

このような状況におきまして、当社は長年に渡り培ってきた当社独自の光技術を活かした研究開発を推し進める一方、顧客ニーズに応えた高付加価値製品を揃え、積極的な営業活動に努めることで、売上高、利益の増加に努力してまいりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は22,902百万円（前年同期比57.6%増）となり、利益面につきましては、営業利益は4,140百万円（前年同期は営業損失708百万円）、経常利益は4,050百万円（前年同期は経常損失297百万円）、四半期純利益は2,863百万円（前年同期は四半期純損失1,226百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。なお、売上高につきましては、セグメント間の売上高を含んでおります。

a 事業の種類別セグメント

〔光電子部品事業〕

光電子増倍管は、PET装置向けの光電子増倍管がその高い性能を評価されシェアを拡大したほか、血液や細胞を検査する装置に用いられている光電子増倍管が、より性能が向上したことや使いやすいようにモジュール化した点などを評価され売上げを伸ばしました。

イメージ機器及び光源は、当社が世界で初めて発明・開発したレーザによるダイシング技術を用いたステルスダイシングエンジンの売上げが、アジア諸国向けを中心に大幅に増加するとともに、X線画像を可視像に変換するX線シンチレータも順調に売上げを伸ばしました。また、UVスポット光源も急速に売上げが回復いたしました。

光半導体素子は、主力のシリコンフォトダイオードが、医療装置向けの売上げが増加したほか、各種産業用機械装置の制御に用いられるエンコーダ向けの売上げにつきましても中国や韓国などの設備投資が活発化したことを受け増加いたしました。また、イメージセンサが半導体検査装置向けを始めとして好調に売上げを伸ばすとともに、中国における好調な自動車販売の影響により、自動車の車内ネットワーク通信向けのフォトICの売上げも増加いたしました。

以上の結果、光電子部品事業の売上高は20,981百万円（前年同期比60.9%増）、営業利益は6,691百万円（前年同期比220.7%増）となりました。

〔計測機器事業〕

画像処理・計測装置は、ドラッグスクリーニングシステムが業界内の統合・再編などにより、需要が減少したものの、DNAシーケンサなどの研究開発用途向けのデジタルカメラや病理組織をデジタル画像で観察できるデジタルスライド観察システムなどのライフサイエンス向けの売上げが増加いたしました。

この結果、計測機器事業の売上高は2,060百万円（前年同期比35.4%増）、営業損失は36百万円（前年同期は営業損失357百万円）となりました。

〔その他事業〕

その他事業の売上高は115百万円（前年同期比12.7%減）、営業損失は25百万円（前年同期は営業損失14百万円）となりました。

b 所在地別セグメント

〔日本〕

日本は、産業分野において、アジア諸国向けを中心に、ステルスダイシングエンジン及びUVスポット光源が売上げを伸ばしたほか、各種産業用機械装置の制御に用いられるエンコーダ向けのシリコンフォトダイオード及び半導体検査装置向けのイメージセンサが売上げを伸ばしました。また、医用分野において、医用診断装置向けのX線シンチレータが欧米向けを中心に、歯科用診断装置向けのイメージセンサが国内及び欧州向けを中心に売上げを伸ばしました。この結果、売上高は20,534百万円（前年同期比72.9%増）、営業利益は5,689百万円（前年同期比394.0%増）となりました。

〔北米〕

北米は、医用分野において、医療装置向けのシリコンフォトダイオード及びP E T装置向けの光電子増倍管が売上げを伸ばしたほか、医用装置向けのX線シンチレータの売上げが堅調に推移いたしました。また、産業分野において、半導体検査装置向けのイメージセンサが売上げを伸ばしました。この結果、売上高は7,260百万円（前年同期比63.5%増）、営業利益は500百万円（前年同期比334.0%増）となりました。

〔欧州〕

欧州は、歯科用など医用診断装置向けのX線シンチレータ及びイメージセンサの売上げが堅調に推移したほか、自動車の車内ネットワーク向けのフォトICが売上げを伸ばしました。この結果、売上高は5,347百万円（前年同期比29.3%増）、営業利益は382百万円（前年同期比103.9%増）となりました。

〔その他〕

その他地域は、売上高は595百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は116百万円（前年同期比318.2%増）となりました。

（2）資産、負債及び純資産の状況

流動資産の主な変動は、売上高の増加に伴い受取手形及び売掛金が5,522百万円増加したこと及び有価証券が6,003百万円、現金及び預金が2,113百万円それぞれ増加したことなどから、流動資産は前連結会計年度末に比べ11,366百万円増加しております。

固定資産の主な変動は、有形固定資産が主に減価償却により2,138百万円減少したものの、長期性預金（投資その他の資産のその他）が2,997百万円増加したことなどから、固定資産は前連結会計年度末に比べ892百万円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ12,258百万円増加し、170,285百万円となりました。

流動負債の主な変動は、1年内返済予定の長期借入金が3,092百万円減少したものの、材料仕入れの増加などにより支払手形及び買掛金が5,110百万円及び未払法人税等が2,598百万円それぞれ増加したことなどから、流動負債は前連結会計年度末に比べ4,951百万円増加しております。

固定負債の主な変動は、長期借入金が3,010百万円及び退職給付引当金が641百万円それぞれ増加したことから、固定負債は前連結会計年度末に比べ3,528百万円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の負債合計は前連結会計年度末に比べ8,479百万円増加し、49,054百万円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定が1,167百万円減少したものの、四半期純利益の計上により利益剰余金が5,734百万円増加したことから、当第3四半期連結会計期間末の純資産は前連結会計年度末に比べ3,779百万円増加し、121,231百万円となりました。

（3）キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における、現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、第2四半期連結会計期間末に比べ731百万円増加し、26,340百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は6,947百万円となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上などによるものであり、前年同期に得られた資金224百万円に比べ6,722百万円の収入増となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は4,236百万円となりました。これは主として、有形固定資産及び有価証券の取得などによるものであり、前年同期に使用した資金10,797百万円に比べ6,560百万円の支出減となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は1,360百万円となりました。これは主として、配当金の支払などによるものであり、前年同期に使用した資金1,754百万円に比べ394百万円の支出減となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は、2,396百万円であります。なお、当第3四半期連結会計期間における研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、第2四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、当第3四半期連結会計期間において新たに確定した設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	250,000,000
計	250,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成22年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年8月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	83,764,984	83,764,984	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	83,764,984	83,764,984		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年4月1日～ 平成22年6月30日		83,764		34,928		34,636

(6)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成22年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

(平成22年6月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,235,400		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 80,494,800	804,948	同上
単元未満株式	普通株式 34,784		
発行済株式総数	83,764,984		
総株主の議決権		804,948	

(注) 1 完全議決権株式(その他)欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

2 単元未満株式欄の普通株式には、当社所有の自己株式91株が含まれております。

【自己株式等】

(平成22年6月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 浜松ホトニクス株式会社	静岡県浜松市東区市 野町1126番地の1	3,235,400		3,235,400	3.86
計		3,235,400		3,235,400	3.86

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
最高(円)	2,360	2,330	2,305	2,354	2,274	2,710	2,791	2,795	2,745
最低(円)	1,990	1,922	1,933	2,120	2,010	2,162	2,526	2,307	2,472

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

3【役員の状態】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年10月1日から平成21年6月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年10月1日から平成22年6月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年10月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年10月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	43,621	41,507
受取手形及び売掛金	22,310	16,788
有価証券	14,003	8,000
商品及び製品	4,945	4,856
仕掛品	10,590	10,810
原材料及び貯蔵品	4,711	4,322
その他	4,379	6,904
貸倒引当金	131	125
流動資産合計	104,430	93,064
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2 25,108	2 21,983
機械装置及び運搬具(純額)	8,745	9,674
工具、器具及び備品(純額)	2,909	3,370
土地	2 12,890	2 12,747
リース資産(純額)	146	89
建設仮勘定	1,527	5,600
有形固定資産合計	1 51,328	1 53,466
無形固定資産	707	434
投資その他の資産		
投資有価証券	2,359	2,356
繰延税金資産	6,581	6,578
その他	4,910	2,143
貸倒引当金	31	17
投資その他の資産合計	13,818	11,060
固定資産合計	65,854	64,962
資産合計	170,285	158,026
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,447	7,337
短期借入金	1,570	1,549
1年内返済予定の長期借入金	3,161	6,253
未払法人税等	2,935	336
賞与引当金	3,939	2,534
その他	6,249	7,339
流動負債合計	30,302	25,351

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
固定負債		
長期借入金	3,237	226
退職給付引当金	14,032	13,390
役員退職慰労引当金	1,270	1,413
その他	211	191
固定負債合計	18,751	15,222
負債合計	49,054	40,574
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,928	34,928
資本剰余金	34,672	34,672
利益剰余金	60,999	55,265
自己株式	6,047	6,046
株主資本合計	124,553	118,819
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	215	186
為替換算調整勘定	4,288	3,121
評価・換算差額等合計	4,073	2,934
少数株主持分	751	1,566
純資産合計	121,231	117,452
負債純資産合計	170,285	158,026

(2)【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
売上高	52,918	66,426
売上原価	28,467	33,677
売上総利益	24,451	32,748
販売費及び一般管理費	¹ 21,932	¹ 21,925
営業利益	2,518	10,823
営業外収益		
受取利息	311	200
為替差益	218	-
持分法による投資利益	77	31
その他	380	365
営業外収益合計	987	597
営業外費用		
支払利息	117	106
不動産賃貸費用	89	76
為替差損	-	308
その他	4	21
営業外費用合計	211	512
経常利益	3,295	10,908
特別利益		
固定資産売却益	6	2
補助金収入	236	395
役員退職慰労引当金戻入額	-	155
その他	0	-
特別利益合計	243	553
特別損失		
固定資産売却損	16	1
固定資産除却損	59	32
固定資産圧縮損	211	376
減損損失	² 1,075	-
投資有価証券評価損	1	17
関係会社整理損	108	4
特別損失合計	1,472	432
税金等調整前四半期純利益	2,066	11,029
法人税等	³ 1,992	3,237
少数株主利益	66	44
四半期純利益	7	7,747

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	14,535	22,902
売上原価	8,037	11,171
売上総利益	6,498	11,730
販売費及び一般管理費	7,206	7,589
営業利益又は営業損失()	708	4,140
営業外収益		
受取利息	48	35
投資不動産賃貸料	-	36
為替差益	250	-
持分法による投資利益	19	27
その他	150	59
営業外収益合計	470	159
営業外費用		
支払利息	32	38
不動産賃貸費用	24	20
為替差損	-	184
その他	1	5
営業外費用合計	58	248
経常利益又は経常損失()	297	4,050
特別利益		
固定資産売却益	0	1
補助金収入	236	395
投資有価証券評価損戻入益	116	-
特別利益合計	353	397
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	13	10
固定資産圧縮損	211	376
投資有価証券評価損	1	4
関係会社整理損	1	0
特別損失合計	228	392
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	172	4,055
法人税等	1,048	1,194
少数株主利益又は少数株主損失()	6	2
四半期純利益又は四半期純損失()	1,226	2,863

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,066	11,029
減価償却費	7,133	6,273
減損損失	1,075	-
賞与引当金の増減額(は減少)	995	1,425
受取利息及び受取配当金	335	222
支払利息	117	106
持分法による投資損益(は益)	77	31
売上債権の増減額(は増加)	7,763	6,262
たな卸資産の増減額(は増加)	2,017	708
仕入債務の増減額(は減少)	4,036	6,015
その他	807	1,040
小計	13,492	18,666
利息及び配当金の受取額	335	222
利息の支払額	117	106
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	6,053	1,959
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,657	20,740
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	12,341	3,222
有価証券の取得による支出	18,646	33,794
有価証券の売却による収入	9,184	27,821
有形固定資産の取得による支出	7,876	5,883
貸付けによる支出	723	0
子会社株式の取得による支出	-	895
その他	3	140
投資活動によるキャッシュ・フロー	30,400	9,671
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	15	23
長期借入れによる収入	-	3,040
長期借入金の返済による支出	1,622	3,121
配当金の支払額	3,827	1,956
その他	25	49
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,460	2,065
現金及び現金同等物に係る換算差額	798	671
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	29,002	8,333
現金及び現金同等物の期首残高	44,805	18,007
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,802	26,340

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	(1) 連結の範囲の変更 (株)光ケミカル研究所及びホトニクス・ハワイ・コーポレーションについては、当第3四半期連結会計期間において清算したため、連結の範囲から除いております。 (2) 変更後の連結子会社の数 15社
2. 会計処理基準に関する事項の変更	完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更 請負工事に係る収益の計上基準については、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成19年12月27日企業会計基準第15号)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会平成19年12月27日企業会計基準適用指針第18号)が第1四半期連結会計期間から適用されたことに伴い、第1四半期連結会計期間に着手した工事から、当第3四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。 なお、当該変更が当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

【表示方法の変更】

	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
(四半期連結損益計算書)	前第3四半期連結会計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「投資不動産賃貸料」は、営業外収益の100分の20を超えたため、当第3四半期連結会計期間から区分掲記することとしました。 なお、前第3四半期連結会計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「投資不動産賃貸料」は36百万円であります。

【簡便な会計処理】

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年9月30日)
1 有形固定資産の減価償却累計額は、95,372百万円であります。	1 有形固定資産の減価償却累計額は、90,728百万円であります。
2 担保資産 担保に供されている資産で、企業集団の事業の運営において重要なものであり、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。	2 担保資産
土地 933 百万円	土地 5,048 百万円
建物及び構築物 688	建物及び構築物 1,537

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)	
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。		1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
給料	5,108百万円	給料	5,110百万円
賞与引当金繰入額	932	賞与引当金繰入額	1,056
退職給付引当金繰入額	271	退職給付引当金繰入額	308
研究開発費	7,251	研究開発費	6,965
2 当第3四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。			
用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
半導体レーザー事業	静岡県 浜松市北区	土地	782
		建物及び構築物	292
合計			1,075
(経緯)			
レーザーグループについては、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスとなる見込みであるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。			
(グルーピングの方法)			
事業資産については、主に事業の種類別セグメントの区分を基本単位として、概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最少の単位ごとにグルーピングしております。また、遊休資産については個別単位でグルーピングしております。			
(回収可能価額の算定方法等)			
回収可能価額は正味売却価額により測定しており、主に不動産鑑定士による評価額を基礎として評価しております。			
3 法人税等には過年度法人税等が512百万円及び過年度法人税等戻入額が910百万円含まれております。			
過年度法人税等は、当社とドイツ国子会社との間の製品取引等に関する移転価格課税によるものであります。また、過年度法人税等戻入額は、移転価格課税に関する日独相互協議の合意に基づく法人税等還付額であります。			

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給料 1,692百万円	給料 1,769百万円
賞与引当金繰入額 317	賞与引当金繰入額 350
退職給付引当金繰入額 84	退職給付引当金繰入額 100
研究開発費 2,382	研究開発費 2,396

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係(平成21年6月30日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係(平成22年6月30日現在)
現金及び預金勘定 42,343百万円	現金及び預金勘定 43,621百万円
預入期間が3ヶ月を超える 26,540	預入期間が3ヶ月を超える 17,280
定期預金	定期預金
現金及び現金同等物 15,802	現金及び現金同等物 26,340

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年10月1日至平成22年6月30日)

1 発行済株式の種類及び総数

普通株式 83,764千株

2 自己株式の種類及び株式数

普通株式 3,369千株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年12月18日 定時株主総会	普通株式	563	7	平成21年9月30日	平成21年12月21日	利益剰余金
平成22年5月10日 取締役会	普通株式	1,449	18	平成22年3月31日	平成22年6月2日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

	光電子部品 (百万円)	計測機器 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	12,884	1,518	131	14,535		14,535
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	152	3		155	(155)	
計	13,037	1,521	131	14,690	(155)	14,535
営業費用	10,950	1,879	146	12,976	2,267	15,243
営業利益又は営業損失()	2,086	357	14	1,714	(2,422)	708

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類及び販売市場等の類似性に基づいております。

2 各事業区分に属する主要な製品の名称

事業区分	主要な製品
光電子部品	光電子増倍管、イメージ機器及び光源(X線シンチレータ、X線イメージインテンシファイア、マイクロチャンネルプレート、重水素ランプ、スポット光源、マイクロフォーカスX線源)、光半導体素子(フォトダイオード、赤外線検出素子、イメージセンサ、発光素子、フォトIC)
計測機器	画像処理・計測装置(特殊ビデオカメラ、汎用画像処理装置、極微弱光画像計測装置、超高速測光装置、光学顕微鏡用画像処理装置、非破壊検査装置)
その他	ホテル事業

当第3四半期連結会計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

	光電子部品 (百万円)	計測機器 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	20,742	2,045	115	22,902		22,902
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	239	15		254	(254)	
計	20,981	2,060	115	23,157	(254)	22,902
営業費用	14,289	2,096	141	16,527	2,234	18,761
営業利益又は営業損失()	6,691	36	25	6,629	(2,489)	4,140

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類及び販売市場等の類似性に基づいております。

2 各事業区分に属する主要な製品の名称

事業区分	主要な製品
光電子部品	光電子増倍管、イメージ機器及び光源(マイクロフォーカスX線源、X線シンチレータ、X線イメージインテンシファイア、マイクロチャンネルプレート、重水素ランプ、ステルスダイシングエンジン、スポット光源、静電気除去装置)、光半導体素子(フォトダイオード、赤外線検出素子、イメージセンサ、発光素子、フォトIC)
計測機器	画像処理・計測装置(特殊ビデオカメラ、汎用画像処理装置、極微弱光画像計測装置、超高速測光装置、光学顕微鏡用画像処理装置、非破壊検査装置)
その他	ホテル事業

前第3四半期連結累計期間(自平成20年10月1日至平成21年6月30日)

	光電子部品 (百万円)	計測機器 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	45,211	7,278	429	52,918		52,918
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	520	26		547	(547)	
計	45,731	7,305	429	53,465	(547)	52,918
営業費用	36,009	7,164	443	43,617	6,782	50,400
営業利益又は営業損失()	9,722	140	14	9,848	(7,329)	2,518

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類及び販売市場等の類似性に基づいております。

2 各事業区分に属する主要な製品の名称

事業区分	主要な製品
光電子部品	光電子増倍管、イメージ機器及び光源(X線シンチレータ、X線イメージインテンシファイア、マイクロチャンネルプレート、重水素ランプ、スポット光源、マイクロフォーカスX線源)、光半導体素子(フォトダイオード、赤外線検出素子、イメージセンサ、発光素子、フォトIC)
計測機器	画像処理・計測装置(特殊ビデオカメラ、汎用画像処理装置、極微弱光画像計測装置、超高速測光装置、光学顕微鏡用画像処理装置、非破壊検査装置)
その他	ホテル事業

- 3 当第3四半期連結累計期間の営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、7,072百万円であり、主として連結財務諸表提出会社の基礎的研究費及び総務、経理部門等の全社管理費用であります。
- 4 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」の会計処理基準に関する事項の変更(1) 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用に記載のとおり、棚卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益は、「光電子部品」が567百万円、「計測機器」が170百万円、それぞれ減少しております。
- 5 「追加情報」の有形固定資産の耐用年数の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、当社及び国内連結子会社は、平成20年度法人税法の改正を機に、有形固定資産の耐用年数を見直した結果、有形固定資産のうち、機械装置の主な耐用年数を従来の4~10年から、4~8年に変更しております。これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益は、「光電子部品」が276百万円、「計測機器」が4百万円、それぞれ減少しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成21年10月1日至平成22年6月30日)

	光電子部品 (百万円)	計測機器 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	58,123	7,911	391	66,426		66,426
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	617	34		652	(652)	
計	58,741	7,946	391	67,078	(652)	66,426
営業費用	41,309	7,355	429	49,095	6,507	55,603
営業利益又は営業損失()	17,431	590	38	17,983	(7,160)	10,823

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類及び販売市場等の類似性に基づいております。

2 各事業区分に属する主要な製品の名称

事業区分	主要な製品
光電子部品	光電子増倍管、イメージ機器及び光源(マイクロフォーカスX線源、X線シンチレータ、X線イメージインテンシファイア、マイクロチャンネルプレート、重水素ランプ、ステルスダイシングエンジン、スポット光源、静電気除去装置)、光半導体素子(フォトダイオード、赤外線検出素子、イメージセンサ、発光素子、フォトIC)
計測機器	画像処理・計測装置(特殊ビデオカメラ、汎用画像処理装置、極微弱光画像計測装置、超高速測光装置、光学顕微鏡用画像処理装置、非破壊検査装置)
その他	ホテル事業

- 3 当第3四半期連結累計期間の営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、6,877百万円であり、主として連結財務諸表提出会社の基礎的研究費及び総務、経理部門等の全社管理費用であります。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自平成21年4月1日至平成21年6月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	5,771	4,370	4,078	314	14,535		14,535
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	6,105	72	57	245	6,480	(6,480)	
計	11,877	4,442	4,136	559	21,015	(6,480)	14,535
営業費用	10,725	4,326	3,948	531	19,533	(4,289)	15,243
営業利益又は営業損 失()	1,151	115	187	27	1,482	(2,190)	708

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

北米 …………… 米国

欧州 …………… ドイツ、フランス、イギリス

その他 …………… 中国

当第3四半期連結会計期間（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	10,289	7,121	5,269	221	22,902		22,902
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	10,244	139	78	373	10,836	(10,836)	
計	20,534	7,260	5,347	595	33,739	(10,836)	22,902
営業費用	14,844	6,760	4,965	479	27,050	(8,288)	18,761
営業利益	5,689	500	382	116	6,688	(2,548)	4,140

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

北米 …………… 米国

欧州 …………… ドイツ、フランス、イギリス

その他 …………… 中国

前第3四半期連結累計期間(自平成20年10月1日至平成21年6月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	23,334	15,044	13,443	1,096	52,918		52,918
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	22,684	259	170	865	23,979	(23,979)	
計	46,018	15,304	13,613	1,962	76,898	(23,979)	52,918
営業費用	38,288	15,039	12,582	1,685	67,596	(17,195)	50,400
営業利益	7,730	264	1,031	276	9,302	(6,784)	2,518

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

北米 米国

欧州 ドイツ、フランス、イギリス

その他 中国

3 当第3四半期連結累計期間の営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、7,072百万円であり、主として連結財務諸表提出会社の基礎的研究費及び総務、経理部門等の全社管理費用であります。

4 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」の会計処理基準に関する事項の変更
(1) 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用に記載のとおり、棚卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益は、「日本」が738百万円減少しております。

5 「追加情報」の有形固定資産の耐用年数の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、当社及び国内連結子会社は、平成20年度法人税法の改正を機に、有形固定資産の耐用年数を見直した結果、有形固定資産のうち、機械装置の主な耐用年数を従来の4～10年から、4～8年に変更しております。これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益は、「日本」が281百万円減少しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成21年10月1日至平成22年6月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	30,722	19,124	15,607	971	66,426		66,426
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	27,685	409	245	851	29,191	(29,191)	
計	58,407	19,534	15,852	1,823	95,617	(29,191)	66,426
営業費用	43,066	18,525	14,549	1,482	77,624	(22,021)	55,603
営業利益	15,340	1,008	1,303	340	17,993	(7,170)	10,823

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

北米 米国

欧州 ドイツ、フランス、イギリス

その他 中国

3 当第3四半期連結累計期間の営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、6,877百万円であり、主として連結財務諸表提出会社の基礎的研究費及び総務、経理部門等の全社管理費用であります。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自平成21年4月1日至平成21年6月30日）

	北米	欧州	アジア	その他	計
海外売上高（百万円）	4,144	4,017	2,035	85	10,282
連結売上高（百万円）					14,535
連結売上高に占める 海外売上高の割合（％）	28.5	27.6	14.0	0.6	70.7

当第3四半期連結会計期間（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）

	北米	欧州	アジア	その他	計
海外売上高（百万円）	6,851	5,140	3,357	86	15,435
連結売上高（百万円）					22,902
連結売上高に占める 海外売上高の割合（％）	29.9	22.4	14.7	0.4	67.4

前第3四半期連結累計期間（自平成20年10月1日至平成21年6月30日）

	北米	欧州	アジア	その他	計
海外売上高（百万円）	14,393	13,281	6,823	281	34,780
連結売上高（百万円）					52,918
連結売上高に占める 海外売上高の割合（％）	27.2	25.1	12.9	0.5	65.7

当第3四半期連結累計期間（自平成21年10月1日至平成22年6月30日）

	北米	欧州	アジア	その他	計
海外売上高（百万円）	18,360	15,413	9,047	222	43,042
連結売上高（百万円）					66,426
連結売上高に占める 海外売上高の割合（％）	27.7	23.2	13.6	0.3	64.8

（注）1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

北米 …………… 米国

欧州 …………… ドイツ、フランス、イギリス

アジア ……… イスラエル、インド、中国、韓国、台湾

その他 ……… オーストラリア

3 海外売上高は、連結財務諸表提出会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年9月30日)
1株当たり純資産額 1,498円60銭	1株当たり純資産額 1,441円44銭

2. 1株当たり四半期純損益等

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純利益 0円09銭	1株当たり四半期純利益 96円37銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 0円09銭	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純利益		
四半期純利益(百万円)	7	7,747
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	7	7,747
期中平均株式数(千株)	80,393	80,395
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	612	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純損失 15円26銭	1株当たり四半期純利益 35円62銭
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり四半期純損益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純損益		
四半期純損益(百万円)	1,226	2,863
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純損益(百万円)	1,226	2,863
期中平均株式数(千株)	80,393	80,395
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益		
四半期純損益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)		
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成22年5月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(1) 中間配当による配当金の総額.....1,449百万円

(2) 1株当たりの金額.....18円00銭

(3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成22年6月2日

(注) 平成22年3月31日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払を行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年8月6日

浜松ホトニクス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 恵一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田宮 紳司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている浜松ホトニクス株式会社の平成20年10月1日から平成21年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年10月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、浜松ホトニクス株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年8月6日

浜松ホトニクス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 恵一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田宮 紳司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている浜松ホトニクス株式会社の平成21年10月1日から平成22年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年10月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、浜松ホトニクス株式会社及び連結子会社の平成22年6月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。